



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

デバイスの進化

〔当法人理事〕

杏林大学医学部付属病院

小林 庸子 [薬剤師]

私のロッカーには、後輩が「アーカイブ」と呼んでいる鞆がある。インスリンのデバイスを捨てられずに入れている鞆である。

薬剤師になりたての頃、調剤室で先輩から「40単位/mLのインスリンに100単位用のシリンジが入っている！」とよく指摘された。冷蔵庫には「40単位/mL」と「100単位/mL」のバイアルの箱（たしか鮭や牛、豚の絵が描いてあった）が並んでいた。インスリン用注射器の棚では40単位用と100単位用のシリンジを注意深く選び、本数を数えて大きな薬袋に入れる。ほかにも冷蔵庫には、1.5mLの細いカートリッジが入っていた。「ノボペン」用のカートリッジである。そのペンは単位合わせのダイヤルも無く、1プッシュ1単位であった。それから間もなく、大きなものが冷蔵庫を占領した。ディスポのペン5本入りの箱に針の箱がセットされたものであり、箱ティッシュ位の大きさだった記憶がある。さすがに不評だったらしく、すぐに針の箱は別包装になった。

アーカイブ鞆の中をしてみる。ノボペン・Ⅱ・Ⅲ・300・その他たくさん。病棟業務の担当になって間もなく、患者さんに使用法のパンフレットを必死に示しながら、実は自分が必死に見ながら手技説明したのは、キャップを回して単位合わせをするディスポのペンであったが、それも入っている。また、ひときわ太いペンがある。「このペンは、シマジェットと言いまして、あの島津製作所が作った、針無の注射器です。」は、島津製作所の方がノーベル賞を受賞された後、糖尿病教室のネタとしてしばらく使わせていただいた。

実はもう一つ、アーカイブがある。薬学部で長年、学生の講義用に使用しているパワーポイントである。最初の頃に「人工臓腑」と検索したところ、まるで透析機器のような写真を見つけた。また、「インスリンとグルカゴンとを2つのルートから注入する携帯用ポンプを開発中」と記載されていた。10年ちょっと前の話題である。「日本には電波法があるために、この10cmが連携できません」とある時から「この貝殻みたいな機器とポンプが連携して」になった。そして「連携してもインスリン量を調節してくれるわけではありません。さすがに人工臓腑ではないですからね。」が、とうとう「AIによってポンプの投与量が・・・」になった。

今日お話しした初めて1型糖尿病と診断された50歳代の方から「飲み薬にはなりませんか？」の質問があった。インスリン注射の理由を話しつつ、「今はスマホと連携ができたり、とうとうAIまで登場しまして・・・」に対して「なんか、希望が持てますね」のコメントをいただいた。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士（LCDE）は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**（5年間で10単位）を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

（「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。）

問題 悲嘆のプロセスで誤っているのはどれか、2つ選べ。

（答えは3ページにあります）

1. ショック期は、怒りや不安の感情を持つ
2. 解消期は、冷静に過去を振り返ることができる
3. 悲嘆期は、否認の思考をもつ
4. ショック期には、身体症状として泣くことがある
5. 悲嘆期は、罪悪感を感じる





第67回日本糖尿病学会年次学術集会

令和6年5月17日(金)～19日(日)

東京国際フォーラム

[当法人会員]

多摩センタークリニックみらい

古賀 恵美 [看護師]

第67回日本糖尿病学会年次学術集会が令和6年5月17日～19日の3日間、6年ぶりに東京で開催されました。今年のテーマは【「糖尿病」のない世界を目指して～糖尿病学の挑戦～】。日曜日を含む開催は今年が初めてですが、会場には多くの参加者が訪れました。

会場には《インスリン治療の歴史》の展示コーナーがあり、注射器や注射針がどのように進化してきたか、そしてそれによって恐怖心や煩わしさがどれほど軽減し、簡便になったのかを知ることができました。会長特別企画として、『糖尿病とともに生活する人々の声をきく』という趣旨のアンケート結果が展示されていました。患者さんの生の声をきく、「参加して共感できる」シンポジウムも開催されていたようです。参加できなかった分、アンケート内容はじっくり読ませていただきましたが、読み進めるにつれてシンポジウムに参加したかったという思いが強くなりました。アンケートの中でも「インスリンを打っていても普通の生活はできません。」という医療者へ向けたメッセージが特に印象に残っています。「インスリンを打っていたら普通の生活ができる」は患者を励ますものではないという患者の声でした。1型糖尿病患者さんは生涯インスリン注射が必要になるため、少しでも気持ちの負担を和らげたいとの思いから発したことのある言葉ですが、患者さんにとっては違っていたのだということに気づかされました。「普通の人は毎日注射や医療機器を身につけていません。この言葉は患者を励ますものではない」とのことです。

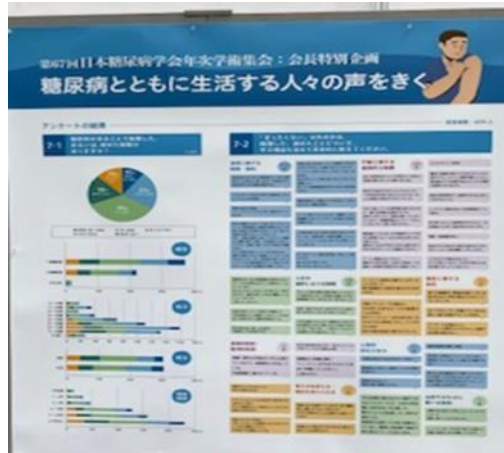
今回の口演の中でも「スティグマ・アドボカシー」についてのセッションがあり、患者の理想とする患者像と医療者側が抱く患者像との違いからスティグマが生まれるとありました。糖尿病のスティグマには①社会的スティグマ②乖離的スティグマ③自己スティグマ④経済的スティグマ⑤予期的スティグマに分類され、これらの糖尿病患者をとりまくスティグマの悪影響を認識し、取り除くことで糖尿病であることを隠さずにいられる社会になる。また②乖離的スティグマは医療従事者から受けやすいスティグマであり、医療従事者側の努力でなくすることができる。医療者側の理想的患者像を作り上げず、患者にスティグマを付与しないようにかかわることが大事で、患者のあるべき姿を目標とせず、患者個々にあった医療をするべきとのことでした。

普段の療養の中で、HbA1cが高いと、生活状況を聞いたり、食べたものを聞いたりしていますが、私たち医療従事者の聞き方によっては、責められている・否定されている・私がダメだったのかと患者が受け取ることもあり、同じ言葉をかけられてもその人の性格やその時々で受け止め方は違ってくるため、慎重に言葉を選び、関わっていかねばいけないとあらためて考える機会となりました。

また、経済的スティグマは、医療費の問題が治療選択に大きな影響を与えています。1型糖尿患者はインスリンを欠かすことはできません。しかし医療費が高くなるため、インスリンの回数を減らしたり、インスリンポンプにしたくても医療費問題でできないなどの制限がかかってしまいます。この発表をしていたのは医療事務の方で、診察も終わり最後の会計の際、患者さんの医療費に関する本音が聞くことができるとのことでした。この発表を聞き、改めて糖尿病診療では多職種の方が関わっている、チーム医療であることを実感しました。

医療・技術・機器類が進化しても、平等な医療が受けられていない現状で、現在スティグマをなくすためのアドボカシー活動が積極的に進められているとのことでした。

学会に参加し、インスリンポンプやDexcomG7・リブレ2などのQOL拡大をサポートできる最新の治療や最新の情報を提供できるように、また平等な医療が受けられ、自ら治療を選択できるように、知識を向上させ、進化する医療についていけるよう頑張ろうと思いました。本学会テーマのように、『糖尿病のない世界』が訪れることを願います。



第67回日本糖尿病学会年次学術集会が5月17日～19日に開催され、18日の午後に現地参加しました。短時間の参加でしたが、現地参加ならではの活気ある空気を数年ぶりに味わうことができました。

今回は糖尿病患者さんとその保護者の方や、高校生対象のプログラムもあったこともあり、会場に小さなお子様を抱っこしたお父様や制服を着た女子高校生の姿が見られました。女子高校生のお二人が、ポスターを見ながら1型糖尿病について話し合っている様子が印象的でした。短時間の滞在でしたので最新の情報を得たと言えませんが、女子高校生が見ていたポスターの事と、DEXCOM G7(以下G7)とFreeStyleリブレ(以下リブレ)のセンサーについて思ったことを書こうと思います。

私事ですが5年前の当学術集会で「FGM(フリースタイルリブレ)を試用した後FGMを選択しなかった理由」を発表させていただきました。当院で1か月間リブレを試用した患者約160名の使用感の満足点、不満点をアンケート調査しまとめたものです。この調査によって明確になったのは、皮膚トラブルなど不満点があるにもかかわらず、糖の動きが見れる有用性や機能性を重視し使用することに決めた方が多数いたということでした。有用性より不満点が多い患者さんは使用中止になっていました。不満点には皮膚トラブルなどありますが、アンケートには、色は肌色にして欲しい(全体の18%)、より小さく薄くして欲しい(約70%)といった希望もありました。今回発売されたG7のセンサーは色がややベージュ味であり、大きさも小さめです。ただセンサーからはみ出ている白いシール部分を含めるとリブレと同じくらいの面積です。またセンサーのふちも滑らかな傾斜がついているので幾分引っ掛かりにくく外れることが軽減されそうです。当時のアンケートの中では、装着部位の希望は腹部、大腿、上腕の順で多かったのですが、G7は腹部でも上腕でも可能とされているので、患者さんに選択肢が増えたと思います。装着方法も簡便になりました。CGMの有用性が周知されてきた今、装着に関する使用者の希望も実現されつつあることが嬉しく思います。

さて女子高校生が見ていたポスターですが、会長特別企画「糖尿病とともに生活する人々の声をきく」という企画の対象の方々への事前アンケートを貼りだしたものです。本学会のホームページからも閲覧できます。患者さんの心の声が聞こえてくるものでした。この中で「もっと早く知りたかった、教えてほしかった」という内容が多々ありました。正しい知識や情報が伝えられる難しさを思いますが、それでも医療者は伝えなければならぬと痛感しました。それは病気を予防する、スティグマをなくすことに繋がると信じて、検査技師として検査の意味や必要性など丁寧に説明することから、これからも患者さんと向き合っていきたいと思っています。



HECサイエンスクリニック

太田 美穂 [臨床検査技師]

読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. 怒りや不安、悲しみの感情をもつのは、悲嘆期である。
2. ○
3. 否認の思考をもつのは、ショック期である。
4. ○
5. ○

<ショック期> 感情:無感情 身体症状:泣く 思考:否認

<悲嘆期> 感情:怒り・悲しみ・不安・抑うつ 身体症状:食欲低下・疲労・不眠
思考:罪悪感・自殺念慮 変化のサイン:小さな変化

<解消期> 思考:冷静に過去を振り返る 変化のサイン:活動の意欲・新しい関係



研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第25回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

 申込必要

本年も対面ではなく以下の要領にて、9月から12月にかけて西東京糖尿病療養指導士養成講座をオンライン（ライブ配信）にて開催いたします。

「日本糖尿病療養指導士認定機構編 糖尿病療養指導ガイドブック」に添った研修講座となっております。日本糖尿病療養指導士受験のための研修講座を更に拡充した形としています。

西東京糖尿病療養指導士養成講座終了後、西東京糖尿病療養指導士認定試験を実施いたします。認定試験の詳細については、講座期間中にご案内いたします。皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

日 程： 9月 ⇒ 5日(木) 10日(火) 19日(木) 26日(木) 30日(月)
 10月 ⇒ 11日(金) 15日(火) 23日(水) 29日(火)
 11月 ⇒ 5日(火) 15日(金) 20日(水) 27日(水)
 12月 ⇒ 5日(木)
 予備日 ⇒ 12月12日(木) ※休講等、不測の事態に備えた補講日

時 間：19：00～20：30

会 場：Zoomにて開催いたします

※視聴確認をしたい場合はこちら⇒<https://zoom.us/test> (Zoomミーティングテストページ)

受講料：当法人会員 12,000円 (全14回講義分として)
 一般 20,000円 (全14回講義分として)

定 員：250名 (定員に達し次第締め切ります)

オン
ライン

テキスト：「糖尿病療養指導ガイドブック 2024」
 (日本糖尿病療養指導士認定機構発行 (株)メディカルレビュー社発売 税込3,465円)

申 込：当法人ホームページ <https://www.cad-net.jp/> より

申込方法の詳細は、以下のページにてご案内いたします

[トップページ](#) > [「重要なお知らせ」](#) > [「第25回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」](#)

西東京糖尿病療養指導士・認定試験実施日：2025年2月11日（火祝）予定
 ※試験の詳細については、講座期間中にご案内します

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

 西東京CDEの会 第22回例会

 申込必要

テーマ：『糖尿病の病名が変わる?! スティグマとアドボカシー活動について一緒に考えよう』

開催日：2024年8月3日（土）15：30～18：45

会 場：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,500円 / 一般 3,000円

申 込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください (8/3締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

オン
ライン

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第23回糖尿病予防講演会

 申込不要

テーマ：『糖尿病性腎症の新時代』

開催日：2024年8月31日（土）14:00～17:25

会場：ルミエール府中（京王線「府中駅」下車 徒歩7分）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

参加費
無料

 Diabetes Seminar in 北多摩

 申込必要

テーマ：『ダイアベティスのトータルケア』

開催日：2024年9月5日（木）19:00～20:30

会場：立川ホール（中央線「立川駅」下車 徒歩3分）

申込：プログラムに掲載のURLもしくはメールよりお申し込みください

問合せ：住友ファーマ(株)（担当：齋藤）TEL：080-6104-9647

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本医師会生涯教育制度：1単位申請中

☆日糖協糖尿病認定医取得のための講習会：申請中

参加費
無料

ハイブ
リッド

 糖尿病災害対策委員会 第12回市民向けセミナー

 申込不要

テーマ：『迫りくる災害にどう対処するか～能登半島地震から学ぶこと～』

開催日：2024年9月7日（土）14:00～16:00

会場：武蔵野スイングホール北棟2階（JR中央線「武蔵境駅」下車 徒歩2分）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

参加費
無料

 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第77回例会

 申込必要

テーマ：『糖尿病と災害～天災は忘れた頃にやってくる～』

開催日：2024年9月12日（木）19:20～21:00

会場：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（9/12締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料

オン
ライン

 第15回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

 申込必要

テーマ：『高齢糖尿病患者の運動療法を本気で取り組むセミナー』

開催日：2024年10月13日（日）8:30～17:00

会場：北里大学薬学部 白金キャンパス 体育館（アリーナ棟）

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：当法人会員 6,000円 / 一般 8,000円（いずれも昼食代込み）

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（9/30締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な必修単位<講義/実習>：計7単位申請中

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/ Email:info@cad-net.jp

編集後記



昨年7～9月上旬に都心で気温30℃超えは64日、35℃超えは22日と過去最多だったそうです(USAでは50℃を超える地域も)。今年も災害級の暑さが予想されていますが、私の暑さ対策は水分、塩分の補給は勿論、接触冷感機能のTシャツを着る、定期的にエアコンの掃除やサーキュレーターの活用などを心がけています。皆さんも効率良く熱中症予防を行い、酷暑を乗り切りましょう。（広報委員 長谷部 翼）



一般社団法人

臨床糖尿病支援ネットワーク

Clinical Assistance of Diabetes Network